



令和7年度 小学部 遊びの指導の実践事例

題材名：水遊びで、水をすくってこぼす、樋に水を流す、的に向けて水をとばすなどして、続けて遊ぶ

授業者：津崎 有花

教材について

本グループは、教師が誘ったり、友だちの遊ぶ様子を見たりすると乗り物や砂などの素材を手にとって遊び始める児童や、自分から遊び始めるが、すぐに遊びをやめたり、一定時間遊び続けたりする児童で構成されている。遊びの様子を見ると、砂を握るなどして素材の感触を楽しむ、砂をすくってこぼす、投げるなどして行為やその結果を楽しむ、砂を容器に詰めてひっくり返し、砂を型取るなどして目的をもって遊ぶなど、児童によって遊び方は様々である。

本実践の水遊びは、暑い時期に冷たい感触が楽しめ、興味・関心をもてると考えた。また、水に触れて水そのものの感触を楽しむ遊びだけでなく、水をすくってこぼす、とばすなどの行為やその結果を楽しむ遊び、的に向けて水をとばす、水が樋などを流れることを利用してものを流すなどの目的をもった遊びなど、本グループの児童それぞれの遊びの段階に応じた活動を仕組めると考え、水遊びを取り上げた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容	生活科 小学部1段階 エ 遊び	配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容
知・技：(イ)身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。		算数科 小学部1段階 D 測定
思・判・表：(ア)身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。		知・技：ア(ア)①ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。
学 び：ウ自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。		

題材目標	知・技	水遊びで、水をこぼしたり、とばしたりした結果の面白さがわかり、自分から容器を使って水車やバケツなどに水をこぼす、傘に水を飛ばすなどして遊ぶ
	思・判・表	水遊びで、容器を使って水車やバケツなどに水をこぼす、傘に水をとばすなどして10分程度続けて遊ぶ
	学 び	毎回の授業で、容器を使って、水車やバケツなどに水をこぼす、傘に水をとばすなどして10分程度続けて遊ぶ
	配 慮	バケツに水を溜めて遊ぶ場面で、「いっぱい」という用語に該当する対象を指し示す

授業評価	知・技	自分からプラコップの水を水車に向けてこぼしたり、傘にとばしたりして遊ぶようになった。
	思・判・表	プラコップの水を水車に向けてこぼす、友だちが持った傘にとばすなどして、10分程度続けて遊ぶようになった。
	主 体	題材後半の毎回の授業で、水を水車に向けてこぼす、傘にとばすなどして、10分程度続けて遊ぶ姿が見られた。
	配 慮	バケツに繰り返し水を入れて貯めた場面で、教師の「いっぱい」の言葉を聞いて、バケツを指さすことができた。

遊びの段階を高めるための教具と働きかけの工夫

実態

ポイント

教具の検討

教師に手渡されたプラコップを使って、水をすくい、地面にこぼして遊ぶことを繰り返す

行為的な遊び

新聞紙を破って遊ぶことを繰り返す

スコップで砂を盛って遊ぶことを繰り返す

こぼす行為に目的をもてるようにするための教具

水をこぼすと回転する

水を溜めてひっくり返すと大量の水が流れる

水を一定量溜めると水がこぼれて音が鳴る

水が傘に当たると跳ね返る

ポイント

働きかけ

結果

目的的な遊びができる教具同士を近くに設定し、友だちや教師が遊ぶ様子を見せてから、遊びに誘う

目的的な遊びを繰り返すようになった

考察

○2つのグループを合わせて実践することにより、違うグループの友だちを遊びに誘ったり、一緒に遊んだりするなど児童の交流の幅が広がった。

○2つのグループを合わせた実践ということで、児童の実態が多岐に渡ったが、教師もいつもより多い人数で話し合うことができ、感触遊びや行為的な遊び、目的的な遊びといった様々な遊びの段階の子どもが遊べる道具を充実させることができた。

△遊び場が広く、児童の人数も多かったため、教師が児童のねらいとなる姿を引き出すための指導をする場面で、働きかけができないことがあった。

→児童と教師が各遊び場を行き来しやすい動線を確保し、毎時間のねらいとなる姿を引き出せる指導ができるようにする。